

東京学芸大学 初等教育専攻 A類

# 音楽

中等教育専攻 B類

## ◆ 音楽を学ぶための2つの専攻（コース）

### 初等教育専攻（A類） 音楽コース

小学校教員を養成するA類では、音楽科の専門的な授業と並行して、全教科の教育法について学びます。3年次に進む段階で、声楽、ピアノ、管弦打、作曲、音楽学、音楽科教育学のいずれかを選択し、卒業研究に向けて音楽の学びを深めます。

### 中等教育専攻（B類） 音楽コース

中学校・高等学校の音楽科教員を養成するB類では、入学時にそれぞれの専門分野が定まっています。1、2年次は音楽科のすべての分野を幅広く学び、その後専門性を深めながら4年次の卒業研究に取り組みます。

## ◆ 各研究室の紹介

### 🎵声楽研究室🎵

- ♪ 個人レッスン、合唱、ソルフェージュを担当しています。
- ♪ 教育系大学では珍しい複数の専任教員と、非常勤教員により、1年次から個人レッスン受講が可能です。3年次に声楽を専門として選択した学生は、さらに専門的に声楽を学ぶことができます。指導の質の高さは、他の音楽大学に比べても遜色のないものと自負しています。
- ♪ 合唱も、音楽科の定員が他の教育大学に比べ多いことから、専門性の高い、大合唱が可能です。

- ♪ 1年に1度、木下牧子氏、松下耕氏、信長貴富氏等、合唱作曲家として著名な邦人作曲家を招き行われる合唱講習会は、大変有意義なものとなっています。
- ♪ 卒業後の進路は、教員は当然として、専門教育の質の高さから、多くの優れた演奏家や声楽の指導者が出ています。生涯教育分野でも、合唱指揮者等多岐にわたる多くの人材を輩出しており、どの分野でも高い評価を得ています。
- ♪ 声楽研究室では、経験豊富なスタッフと素晴らしい音楽教育環境をもって、全国の受験生の皆さんをお迎えしたいと思っています。

### 🎵ピアノ研究室🎵

- ♪ ピアノ研究室では、常勤3名と非常勤講師5名、計8名でピアノの学習をサポートしています。
- ♪ 授業は100分の授業時間の中で約3～5人のクラス合同レッスン形式で行っています。他の人のレッスンを聞きながら共に考え、自らの音楽観を拓げることが目標に行っています。3年次以降で卒業研究にピアノを選ぶ学生に対しては、より専門的なレッスンを行います。
- ♪ 発表の場として実技試験の他に各クラスで研究発表会等を実施しており、自分の演奏だけではなく他の演奏を聴くことや、プログラムやホールの準備等で運営面でも多くを学ぶ場としています。
- ♪ 音楽や音楽教育を学ぶ上でピアノのスキルは必要不可欠です。それはピアノがメロディーだけではなく、和声やリズムといった音楽全体を把握し表現できる唯一の楽器だからです。単なるピアノの弾き方に留まらず、広く音楽の勉強ができるよう共に頑張りましょう。

### 管弦打研究室

♪管弦打楽器研究室に関連する授業は、まず1～2年次に履修する「基礎管弦打実技Ⅰ～Ⅳ」があります。そこでは以下の楽器を個別に学びます。

（フルート、クラリネット、トランペット、ホルン、トロンボーン、ユーフォニアム、  
チューバ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、打楽器）

♪卒業研究として選択できるのは以下の楽器です。

（フルート、クラリネット、トランペット、ホルン、トロンボーン、ユーフォニアム、  
チューバ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、マリンバ）

♪合奏の授業には吹奏楽とオーケストラがあり、それぞれ隔年で開講しています。

♪管弦打研究室では授業以外にも活発な活動をしています。ソロやアンサンブルの研究発表会、また管弦打専攻生を中心としたオーケストラ・ゼミや吹奏楽ゼミも定期的に演奏会を行っています。

### 作曲研究室

♪1年次には「作曲法Ⅰ」、「作曲法Ⅱ」という授業があります。春学期の「作曲法Ⅰ」ではハーモニーの勉強である和声の基礎を学びます。秋学期の「作曲法Ⅱ」では合唱や器楽の編曲について学びます。以上の授業は音楽科全ての学生が必修となっています。

♪2年次以降は選択の授業で「作曲研究」という授業が開設されています。その授業では、自由な編成、スタイルによる作曲、和声、編曲、曲の分析、曲の形式などを学びます。

♪B類で入試の際に作曲で受験した学生と、A類で希望する学生は卒業研究に作曲を選択することができます。作曲の卒業研究は卒業作品を作曲し、卒業演奏会において実際に音にして頂きます。曲の編成、スタイルは自由で、少人数の室内楽曲から、最近ではオーケストラ曲、吹奏楽曲といった大人数の編成の作品を作曲する学生も多くなってお

り、中には40分にも及ぶ室内オペラを作曲した学生もいます。

♪作曲専門の学生は自主的な作品発表会を年に2回ほど開催するなど、意欲的に活動しています。

### 音楽学研究室

♪音楽学研究室が担当している授業は、「音楽学概論A・B・C」、「音楽学基礎研究A・B・C」、「音楽学研究A・B・C」があります。

♪「音楽学概論A・B」は必修で、1年次の春学期に西洋音楽史、秋学期に日本音楽史を学びます。「音楽学概論C」はA類は選択必修、B類は必修の科目で、3年次の秋学期に諸民族の音楽を学びます。これらの授業では東西の音楽史や世界の音楽についての基礎知識を幅広く身につけてもらうことを目標にしています。

♪「音楽学基礎研究A・B・C」、「音楽学研究A・B・C」は、個別の課題を探究したり、研究方法などを学ぶ授業です。B類の入試で音楽学を選択した学生、A類で3年次に音楽学を選択した学生に向けた専門性の高い授業ですが、音楽学を深く学びたい人は誰でも受講することができます。

♪音楽学の卒業研究は卒業論文の執筆で、各自が設定したテーマを、4年次に1年かけて探究します。

♪音楽学は、古今東西のあらゆる音楽を研究対象にしています。音楽学研究室では各学生の興味関心を重視し、音楽について深く考える場を提供することに努めています。

## ♪ 音楽科教育学研究室

- ♪ 音楽教育関連科目は、教員免許取得に必要なものが多く含まれ、3年次の教育実習に必要となる内容も含まれます。
- ♪ 中学校・高等学校の音楽免許の取得には1、2年次に教育法の科目を履修します。B類は必修で、A類は免許取得希望者が選択で履修します。例年ほとんどのA類生が履修しています。東京都の教員採用試験で、小学校音楽専科を希望する場合は、中高の音楽免許が必要です。
- ♪ 小学校全科の免許は、2年次以降に他教科の関連授業の履修が必要です。A類は必修で、B類は小学校免許の取得希望者のみが履修します。
- ♪ 「中等音楽科教育法Ⅰ・Ⅱ」(1年次)、「中等音楽科教育法Ⅲ・Ⅳ」「初等音楽科教育法」(2年次)、「音楽教育特別研究A～C」「音楽科カリキュラム論A・B」(3年次)、「教職実践演習」(4年次)は音楽教育学に関連する科目です。1・2年次で免許取得に必要な科目を履修し、3年次にはさらに選択科目で音楽教育に関して深めた内容を取り上げていきます。
- ♪ 「和楽器A～D」「邦楽歌唱法A・B」(2年次)、「民族音楽演習A・B」「ポピュラー音楽演習」(3年次)といったいわゆる西洋クラシック音楽以外の実技系科目も多数開設されています。日本伝統音楽、民族音楽、ポピュラー音楽も、学校の音楽の授業では取り上げられており、特に日本伝統音楽に関連した科目は、中高音楽免許に必要なため選択必修科目になっています。また新たに「リトミック演習」「音楽療法概説」(3年次)が開講され、さらに音楽教育を幅広い観点から学ぶことができます。
- ♪ 3年次に専門領域として音楽科教育学を選択した学生は、ゼミに所属して2年間かけて音楽教育に関する研究を進めて卒業論文を執筆します。ゼミは、4年生や大学院生と合同で行い、適宜中間発表会などを行います。

♪ 広く音楽教育に関わる内容から各自の興味のあるテーマを設定していきます。近年の研究テーマの例として「ボディパーカッションを使った小学校音楽科の授業づくり」「道徳教育との関連を重視した小学校音楽科における授業」などが挙げられます。

## ◆ 教育実習や免許取得に関して

### 教育実習関連科目について

本学では、3年次の9月から10月にかけて、附属学校で「教育実地研究Ⅰ」として教育実習を行います。A類は附属小学校で、B類は附属中学校・附属高校・附属中等学校のいずれかで実習を行います。

希望する学生は、附属学校での実習の後に「応用実習(公立学校等)」や副免許の取得のための「選択実習」を実施することができます。

関連して2年次に「授業観察演習」3年次に「事前・事後の指導」などの科目があります。

### 教員免許等の取得について

A類は小学校の全科の教員免許、B類は中学校及び高等学校の音楽の教員免許の取得が卒業要件となります。希望者は、必要な単位を追加して履修することによって、他の校種の免許を取得することが可能です。

A類生のほとんどは中高の音楽の免許を取得して卒業しています。また、B類生も全科の小学校免許の取得が可能です。さらに、幼稚園教諭、特別支援学校教諭、図書館司書教諭などの免許を取得する学生もいます。

他教科の中高免許取得は、当該教室の免許関係科目の履修可否判断によります。